

みんなのた場



国体カヌーで見事2冠

感謝と努力で

つかんだ栄光

石巻商業高校3年生の佐藤海斗さんが、10月1日(木)〜4日(日)に行われた「2015紀の国わかやま国体」のカヌー競技に出場し、少年男子カヤックシングルスの500メートルと200メートルの2種目で優勝しました。佐藤さんは大会後も、2020年の東京五輪を目標に鍛錬を重ねています。

佐藤さんは北上町十三浜出身で、震災後は小船越に住んでいます。小・中学校では野球部の投手として活躍していましたが、高校入学を機に、個人競技がしたいとカヌー部に入部しました。しかしカヌーは小柄な体格の方が乗りやすく、高校1年生の時に、すでに180センチを超えていた佐藤さんはバランスを取るのにも一苦労でした。そのため同学年の誰よりも乗ることができるようになるのが遅かったそうです。

それでも水を走る感覚を楽しみながら練習を重ね、ストロークの大きさとパワーでめきめき上達し、2年生の後半には県内の強豪校に迫る実力をつけました。とはいえ他校は中学校からの経験者も多く、なかなかもう一つ上へと進めない状態でした。

しかし、今年6月の国体県予選と7月の東北予選で優勝し、続く8月と9月の全国規模の大会でも1位となりました。負けなしで臨んだわかやま国体では、3年間の勝負経験と、小さな頃からのスポーツ歴を活かし2冠の栄誉を獲得しました。



佐藤海斗さん(18) 石巻商業高校3年



▲今年9月に開催された日本カヌースプリントジュニア小松大会での佐藤さん

た。そのレースぶりは他校の予想を裏切り、驚きの声を挙げさせるほどだったといいます。

佐藤さんは試合前、これまでカヌーを指導してくれた先生や先輩、仲間の部員、恵まれた体に生んでくれた両親、さらに震災で家が流され、父親を亡くした佐藤さん自身を支援してくれた皆さんのことを考えていたそうです。そして、感謝の思いを力に変えてパドルを漕ぎ、見事優勝を果たしました。その瞬間の気持ちを「気持ちよかったです」と振り返ります。

来年4月にはスポーツ推薦で東京都の大正大学に入学し、強豪カヌー部の部員として新たなスタートを切ります。大学を卒業した直後には東京五輪があり、体力と技術を一層高め、「代表に選ばれ、さらに上位を取れるよう頑張っていきたい」と意気込んでいました。

文化財 たんぽう 86

羽黒下遺跡発掘調査の現地説明会について

石巻市教育委員会 生涯学習課



掘立柱建物跡解説の様子

これまで2回報告してきました羽黒下遺跡では、調査成果を市民の皆さんにご覧いただくため、10月24日(土)に現地説明会を行いました。今回は、その時の様子を報告します。

当日は、地域の方々をはじめ約100人の方にご参加いただきました。縄文時代の竪穴建物跡や、中世の溝を伴う柵跡、掘立柱建物跡について、牡鹿半島の歴史と絡めてお話しました。

たたくさんの縄文土器や石器、土偶をはじめとしたお祭りの道具、耳飾り等の装飾品の一部を展示しました。ほとんどが破片で見つかる縄文土器ですが、そのままだでは当時の姿がイメージできませんので、パズルのようにもとの形に組み合わせしてみました。県内では発掘例の少ない時期の縄文土器も出土していますので、その不思議な文様や、形、大きさに驚きの声も聞かれています。担当者は大満足でした。



▲出土遺物解説の様子

の方々に遺跡をより身近に感じ、素晴らしい文化財を知ってもらうため、このような機会を作っていました。

キラッとパチリ

行政相談委員として総務大臣表彰

総務省行政相談委員の松川栄光さん(79)は18年に及ぶ活動の功績が認められ、今年10月7日(水)に総務大臣表彰を受賞しました。

松川さんは、市内で青果食品店を営むかたわら、平成9年に行政相談委員に委嘱されました。現在に至るま



総務大臣表彰を受賞した松川さん

石巻市大手町 松川栄光さん 79歳

で、市民からの相談や要望、苦情等を受け付け、その解決や実現に向けたアドバイスを送る等、地域と行政のパイプ役としての役割を担ってききました。市民からの相談内容は通学路の安全確保や旧市立病院までの看板設置要望や遺産相続等多岐にわたります。震災後は、仮設住宅や復興公営住宅に関する相談等も寄せられており、それらに対しても丁寧に対応しています。

持ち前のフットワークの軽さで市民の声をきめ細かく聞き取り、行政に反映させてきました。これまでの活動を「どんな小さなことでも困りごとがあればすぐに駆けつけ、相談に乗って来ました。助言をしたり、一緒に解決への糸口を探ったりと、相談者と同じ目線に立って地道にやってきました」と振り返ります。

表彰式は10月7日(水)に、東京都内のホテルで行われました。受賞について「少しでも地域の役に立てたのであればうれしいです。皆さんの協力があってからこそ受賞だと思っているので感謝の気持ちでいっぱいです」と話していました。松川さんは現在も行政相談委員としての活動に精を出しています。「これからも変わらず、悩みを抱えている人たちの力になれるよう頑張りたいです」と意気込みを語っていました。

まちの話題

雄勝地区



10月11日(日)
おがつ店こ屋街前

イキのいい ホタテ大人気

「おがつ店こ屋街4周年記念ホタテまつり」が開催され、朝に水揚げされた新鮮なホタテを求めて市内外から大勢の方が訪れました。即売コーナーやホタテ釣りコーナーには長い行列ができ、その場でホタテを焼いて食べる浜焼きコーナーではおいしいホタテを堪能する姿が見られました。また、ペア宿泊券が当たった大抽選会やステージイベント等も行われ、会場は大いに賑わいました。

河北地区



11月1日(日)
ビッグバン周辺

地域の産業や 文化を満喫

フェスティバル・イン・かほく(10月31日(土)~11月3日(火・祝))の一環で、地場産品をPRする「かほく産業まつり」と「かほく文化祭」が開催されました。産業まつりでは、サケのつかみどりが人気を集め、水を張ったプールに入った子どもたちがしぶきと歓声を上げながら魚を追いかけてました。文化祭には地元で活動する人たちが各種作品や舞台発表で来場者を喜ばせました。

桃生地区



10月31日(土)、11月1日(日)
桃生公民館

心温まる作品が いっぱい

「高めよう文化の心 広げよう文化の華」をテーマに、桃生地区文化祭が開かれました。地域で活動する24団体4個人が絵画や書、手芸、陶芸等の作品1361点を出品し、地域内外から訪れた多くの人たちが文化・芸術の秋に触れました。来場者も体験できるちぎり絵や茶道のコーナーが設けられたほか、100点を超える菊花展も開催され、会場に華やかな雰囲気漂わせていました。

河南地区



10月31日(土)
遊楽館

住民の文化芸術が 一堂に

地域振興と住民同士の交流を目的とした「第24回かなんまつり」では、地元で収穫された新鮮な農作物の展示販売コーナーや郷土芸能のステージ、芸術作品展示等が設けられ、どの会場も多くの人でにぎわいました。このうち館内ホールでは、各地区の文化団体による民俗芸能の発表や演歌、舞踊ショーが華やかに繰り広げられました。訪れた人たちは文化の秋を満喫していました。

牡鹿地区



11月8日(日)
清崎山の新庁舎

女川消防署 牡鹿出張所が完成

震災の津波で全壊したため仮設で対応していた女川消防署牡鹿出張所が、高台に移転新築され、開庁式が行われました。出席した人たちは、安全安心の拠点の復活を喜び合いました。新庁舎は鉄骨平屋建てで、地域防災力の向上のため住民を対象とした救急救命講習や各種防災講習等ができる多目的室も設けました。来年1月までに太陽光発電設備を整備します。

北上地区



10月7日(水)
北上町女川地内の水田

鎌を使って 稲刈り体験

北上小学校の3年生15人が鎌を使った稲刈りを体験しました。収穫したのは、児童たちが春に植えたもち米「ミヤコガネ」です。最初はゆっくりとした動きの子どもも、徐々に手早く刈り取ることができるようになり、収穫の喜びを味わっていました。刈り取った米は、児童たちが脱穀から精米までを体験し、来年2月ごろに同校で餅つきを行って地域の人たちにも振る舞う予定です。

石巻地区



10月18日(日)
石巻魚市場

新魚市場完成祝い 盛大に大漁まつり

9月に全施設が完成した石巻魚市場で「いしのまき大漁まつり」が開かれ、昨年の3倍近い約42,000人が来場しました。恒例の鮮魚競りのほか、新魚市場完成記念で初めてのマグロの解体ショーも行われ、人気を集めました。また石巻市と姉妹・友好都市を結ぶ茨城県ひたちなか市や山形県河北町等の県外の自治体も、ご当地グルメが味わえるブースを設け、会場を盛り上げました。

石巻地区



10月31日(土)
立町通り

ハロウィーン行列で にぎわい

魔女やお化け等に仮装した子どもたちがまちに繰り出す「石巻ハロウィン祭り」が行われました。市子どもセンター「らいつ」が昨年に引き続いて開催したイベントで、親子等約1,000人が参加しました。紙やビニール袋等で作った衣装をまとい変身した子どもたちが商店を訪れると、店主らが用意したお菓子をプレゼントして交流を深めていました。